椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第30号

令和4年1月1日発行
長野県諏訪郡富士見町落合
発行人　小池博之
印　刷　杏花印刷

第40回慰霊巡拝団現地訪問
ブナ・ギルワ守備隊玉砕地
東部ニューギニア激戦地

ブナ守備隊玉砕地で慰霊祭を斎行

地球規模のコロナ感染症のため、ニューギニアへの慰霊巡拝は中断されているが、当会は現地慰霊巡拝節目の40回にあたる令和元年8月、栃木県護國神社との共催で8名を現地に派遣した。英霊に対して孫、曾孫にあたる若い世代から2名が参加、現地の住民とも交流する中で慰霊の灯火を次世代に繋ぐことができた。

東部ニューギニア作戦の要地であるブナを訪問。守備隊が全滅した「戦没日本人之碑」前で慰霊祭を斎行した。

昭和17年11月米軍の攻勢が始まったこの地域では、陸海軍守備隊が奮闘したが、40日におよぶ攻防戦の末玉砕した。ブナ・バサブアの戦闘では南海支隊主力、歩兵第41連隊、海軍陸戦隊の将兵8千余名が戦没した。

コロナ禍を超えて新時代へ
新年のご挨拶

会長　小池博之

皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと存じます。本年のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

新型コロナウイルスの感染症は、国内では小康状態となっていますが、世界的には変異株の出現など、まだ予断を許しません。20世紀初頭に大流行したスペイン風邪が、終息まで足掛け3年を擁したことからも、本年は「コロナとの共生を前提とした新しい社会創り」への動きが、一段と進むことが予想されます。

さて、昨年の当会の事業は、2月の定期総会は無事行いましたが、7月のニューギニア方面慰霊大祭は、感染者が急拡大した状況のため、会員皆様の参列を見合わせ、役員のみで式典を執り行いました。また、現地慰霊巡拝団の派遣は、ニューギニアへの入国ができないため、実施できませんでした。

「戦没日本人之碑」
昭和30年日本政府が遺骨収集地に建立、現地人が「ヘリコニア」を供花してくれた

終戦から76年目の昨年8月15日、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、全国戦没者追悼式が東京・武道館で挙行されました。コロナの緊急事態宣言下のため、参列者は過去最低の200人を前に、天皇陛下は、「私たち皆がなお一層心を一つにし、力を合わせてこの困難を乗り越えよう」と述べられました。

本年は、昭和16年12月8日、海軍機動部隊の真珠湾攻撃による、日米開戦から80年の節目であり、また、戦後77年となります。

戦後生まれが9割となった今、戦争の記憶を後世へ繋げる事の出来る1割である自覚と、「平和の語り部」としての自負を持ち、近未来の国の在り方を真剣に考えなければ、いつまでも「戦後」は終わりません。そのために私たち遺族は粘り強く活動を続けて参ります。

なお、本会が管理するウエワクのコイキン観音敷地問題については、コロナ禍でPNGへの入国が出来ません。

このため、土地所有者に対して、ポートモレスビーの大黒・社長 富田辰朗氏を介して、善処しておりますことをご報告して、新年のご挨拶といたします。

▽第54回通常総会　開催のお知らせ

長野県ニューギニア会の会則により、第54回通常総会を左記の通り開催いたします。

記

・日時　令和4年2月11日（祝）午後2時から
・会場　浅間温泉みやま荘　松本市浅間温泉3-28-6
　TEL　0263-46-1547

会員の皆様のご参加をお待ちしております。
（マスクをご用意ください）

第53回 ニューギニア方面 戦没者慰霊大祭厳かに斎行

新型コロナ感染症の影響を鑑み、一昨年に続き自粛開催となった第53回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭は、7月25日松本市の長野県護國神社において厳粛に斎行された。ご家族をはじめ関係者の参列を遠慮いただき、先の大戦においてニューギニア島およびその周辺で散華された、県内出身3474柱のご英霊の冥福を祈った。

碑前で拝礼する代表役員

この日、松本地方は正午の気温が34度を記録。護國神社本殿には横田、本田、大久保各顧問を始めニューギニア会代表役員12名が参列した。

式典は午後1時の大太鼓の合図で始まり、黙祷修祓に続き奥谷宮司が祝詞を奏上した。続いて小池会長が神前に進み祭文を献上（詳細別掲）した。引き続いて参加者全員が玉串を奉奠して拝礼、最後に加藤長野市長ら県内各市町村長からの追悼の電文が披露され、大祭を終了した。

祭文

長野県ニューギニア会主催「第五十三回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭」を執り行うにあたり、本会を代表して三千四百七十四柱のご英霊に、謹んで祭文を奏上いたします。

日本から遠く離れたニューギニアの地で、祖国の安泰と家族を思いつつ、國のために若い命を捧げられた、諸霊の御前に額ずき往時を偲びます時、今なお悲しみと痛恨の情を禁じ得ません。国の礎となられた皆様のご冥福をこころからお祈りいたします。

新型コロナ感染症が拡大し世界は未曾有の危機に直面しており、遺族会の活動も思うに任せない日々ですが、恒久平和への歩みを止めることなく、粘り強く活動して参ります。

一日も早く事態が収束し、平穏な日々が取り戻せるよう、ご英霊に限りないご加護を賜らんとこをお願い申し上げます。

終わりにあたり、あらためて御霊に尊崇の誠を捧げ、感謝の意を表し、祭文といたします。令和三年七月二十五日　会長　小池博之

「嗚呼戦友の碑」で碑前祭を開催

式典に先立ち、神苑内の慰霊碑前で役員が参加して碑前祭を開催した。平成26年春に全面改修工事を行って以来7年が経過したことから、業者に依頼して、周辺樹木の伐採や生垣の剪定、下草刈りなどを実施。面目を一新した碑前で参列者一同は拝礼して、殉国のご英霊に尊崇の誠を捧げた。

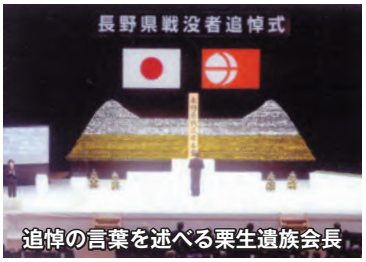
伊那で県戦没者追悼式 戦争の記憶継承へ

令和3年度の長野県戦没者追悼式は、昨年10月23日伊那市の県伊那文化会館で開いた。県内各地の戦没者遺族代表ら約400人が参列した。

戦後76年が経過し遺族が高齢化する中、戦争の記憶を次世代に継承しようと、初めて若者がメッセージを発表。地元伊那弥生ヶ高校の女子学生二人が平和への思いを発表して注目された。

阿部知事は式辞で「今日の平和と繁栄が戦没者の尊い犠牲の上に築かれたものであることを忘れることなく、世界の恒久平和の実現に向けて努力したい」と述べた。

県遺族会の栗生勝由会長は「国民の九割が戦争を知らない世代となり、記憶の風化が進んでいる、コロナ感染症が収束しない中で、盛大な追悼式が挙行できたことに感謝したい」と追悼の辞を述べた。



追悼の言葉を述べる栗生遺族会長

DNA鑑定拡大 ご遺骨を遺族のもとへ

東部ニューギニアも対象に

厚生労働省は、戦没者の遺骨を特定するDNA鑑定の対象を拡大。昨年秋から東部ニューギニア地域が対象地区になったため、今後戦没者の身元特定が可能となり、遺族への遺骨返還が進むことが期待される。

県地域福祉課によると、県内出身の戦没者は約5万5千人に上る。この内どれだけの遺骨が返還されたかは「不明」だ。ニューギニアでは3千4百人が亡くなっている。戦後の混乱の中で遺骨が無いまま戦死公報だけを拝受した遺族が多い。

厚労省は日本が独立した昭和27年から遺骨収集事業を開始。激戦地となった沖縄や硫黄島、東南アジアなど14地域が対象で、DNA鑑定は平成15年から始めた。

昨年8月の時点でDNA鑑定で身元が分かった遺骨は千二百柱に過ぎない。鑑定の実施は、遺留品などが遺骨と一緒に発見された場合に限っていたためだ。

戦後76年が経過し、遺骨の収集作業も困難となり、遺族も高齢化。厚労省は「国の責任として遺族への遺骨返還を早急に進める」として要件を見直した。

同省がこれまでに、戦没者遺骨の一部を検体として採取した地域はシベリアを含む旧ソ連、ビスマルク・ソロモン諸島などから一万一千百六十九人分を保管しており、東部ニューギニア地域では280柱の検体が保管されている。

厚労省鑑定調査室によると、これまでに約三千六百柱の鑑定をしたが身元判明率は三割に止まっている。「高温多湿な南方方面で収集した遺骨は、DNAが壊れていることが多い」とも指摘している。

遺骨の身元確認のためのDNA鑑定事業を知らない遺族も少なくなく、今後遺族への周知がかかせない。

遺伝DNA鑑定申請方法

DNA鑑定を希望する場合は、規定の「DNA鑑定申請書」に必要事項を記載し申し込むことができる。

この件に関する問い合せ先は、厚労省援護局　遺骨鑑定推進室へ

TEL　03-3595-2219
FAX　03-3595-2229

特別寄稿

陽に逢うた御霊

戦没者遺骨収集事業体験

大角　貞夫

先の大戦における戦没者の遺骨帰還事業は、新型コロナ感染症の世界的な蔓延により、昨年来中止されていますが、私は遺児の一人として平成25年1月、父が眠る東部ニューギニアに赴き、現地遺骨収集作業に参加しました。

父のお骨は確認することは出来ませんでしたが、16日間にわたりサンダウン、東セピック、マダン、モロベの各州を回り95柱の英霊のご遺骨を収集して、祖国へお連れすることができました。

暑熱の密林内での発掘作業が続けられる中で、地中深くから人骨が現れるたびに、感涙にむせぶ思いでした。70有余年という長い間土中に埋もれていて、久しぶりに煌々と輝く陽光を浴びた頭蓋骨は、かすかに笑みを浮かべているような幻覚さえ感じました。

焼骨式はウエワクとラエで行われ、各地から収集され仮安置所に保管されていた遺骨は現地の鑑定士により再鑑定を行い、木材で櫓を組み焼骨作業を進めました。

追悼式はラエ市のムヤ集落内で斎行され、青木団長、在日本大使館松村書記官、それに団員12名に現地の州政府関係者ら多数が参加。祭壇は南国の花々で飾られ、長野県からは「県知事」「県遺族会」から花輪が贈呈されました。

祖国に帰還したご遺骨は、千鳥ケ淵戦没者墓苑において引渡式に臨んだ。多くの遺族見守る中、ご遺骨を捧持した派遣団員から厚労省職員へ手渡されました。

東部ニューギニアでの戦没者は12万7千6百余人とされ、これまでに5万4千柱が帰還。未だに7万4千柱が現地に残されている。戦死公報のみを受け取った戦没者遺族は高齢となり、一日でも早い遺骨の返還を切望しています。

（立科町在住）

ラエでの追悼式

「嗚呼　戦友」の碑周辺整備事業、クレーンで樹木剪定実施

長野県護國神社境内に鎮座する『嗚呼戦友』の碑周辺樹木の剪定作業が、昨年7月慰霊大祭を前に行われ、慰霊碑周辺の神域環境が一新された。

40余年の長きにわたり、風雪に耐え遺族と共に歩んできた慰霊碑は、7年前に全面改修された。近年、周辺樹木が生い茂り、石碑が埋没状態になったことなどから、本年度計画の整備事業を実施した。

事業請負は、同碑の改修工事を担当した（株）ヤマサマテリアル（松本市）。剪定作業は2日に渡り行われ、慰霊碑（石積み台座含む、9メートル）超える周辺の樹木は、クレーン車を使い伐採や枝を切断、併せて植栽樹木の刈り込みを行った。

慰霊碑周辺作業

在日PNG大使館にサムエル・アバル新大使着任

四年間大使不在が続いていた在日PNG大使館に、昨年10月、サムエル・アバル特命全権大使が着任した。

アバル大使はソルボンヌ大卒、在ベルギー大使館書記官、外務大臣、副首相などを歴任、わが国へは初の赴任となる。

事務局から

▽本年度、新規入会された会員を紹介いたします。

・浅見　良太様（川越市）

▽本年度の一般寄付とコロナ影響下での慰霊大祭に玉串料をお寄せいただきました　有難うございました（順不同）

・丸山　芳邦様（川越市）
・東部ニューギニア戦友・遺族会様
・横田　久　様（長野市）
・本田　昌彦様（青木村）
・大久保典昭様（松本市）
・小池　博之様（富士見町）
・成沢　勝人様（大町市）
・大久保寛憲様（長野市）
・安川　叡春様（佐久市）
・宮島いく子様（長野市）
・宮嶋　叙子様（中野市）
・三沢　卓夫様（岡谷市）
・林　尚武様（松本市）
・大角　貞夫様（立科町）
・長田　健治様（長野市）

開戦から80年・神谷元会長追想記

某日、旧い資料を整理中、故人の神谷元会長が松本での慰霊祭の資料として作った手書きの大きな「東部ニューギニア作戦略図」が出てきたのでお身内の松田克江さんにお送りしました。ご感想として「記憶は曖昧になってしまって、なぜ、父ときちんと向き合って戦争について話を聞かなかったかと悔やまれる…勿体ないことをした」とのご返事を頂きました。そして「父との思い出は度々心に浮かび、もう一度会えたらと痛切に思うことがあります…。」とのことでした。松田さんとは慰霊巡拝も一緒でしたが、慰霊の資料なども三郷に置いたままで今になってしまったとのことです。松田さんにお父上の昔の資料についてのご感想を頂きたかったのですが残念でした。

凄惨を極めたニューギニア戦線では、歩兵239連隊の下士官として参戦、生還した。戦後は「敗戦の教訓を祖国の再建に生かす」との信念で、会の発展にご尽力頂いた。（竹村）

インドネシア共和国の国旗を整備

西部ニューギニア地区との友好の証としてインドネシア国旗を購入、慰霊大祭において「嗚呼戦友」の碑の前に掲げるよう整備した。

同国旗は、インドネシア独立後の1945年8月に制定され、上に赤、下に白を配した横二色旗で、赤は勇気と情熱を、白は真実と聖なる心を表している。

訃報　当会顧問・元副会長　丸山尊人さん　逝去

長野県ニューギニア会顧問、丸山尊人氏が、昨年3月24日逝去された。享年81歳。

謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

同氏は、平成19年から副会長及び顧問として会の発展に寄与され、下伊那郡松川町の遠方から役員会議への出席や、懸案の「嗚呼戦友」の碑の大規模改修、護國神社での慰霊大祭への率先参加など南信方面の会員の取りまとめに尽力されました。

椰子の実

★お正月はいかがでしたか。コロナ情報を押しつけられながらお過ごしだったと思います。会報は30号、創刊から15年。役員有志の会合も自粛続きで苦労しています。現地からは厳しい対策を求めるせち辛いことばかり、時代が変わりました。★30年以上も昔のこと、長野市内の寿司屋で集まっていた俳句の会で「書くものが足りない」と話したところたくさんの文房具や紙が集まり重いお土産を持参。その頃の現地の小学生も今は社会人、賑やかで楽しかった当会の学校訪問は憶えているでしょうね…。★遺骨収集が改めて話題です。現地人から自宅の庭に埋めてある日本兵の話を聞いて認識票の写真まで持ち帰り調査をしましたが国側も熱意が無く立ち消えに、勿体ない情報でした。★接種したワクチンは時間が経つと効果が減るので追加が必要とか、本当のところはどうなんでしょう…。経済とウイルスとの力比べが続きます。新しく出てきた南アフリカ原産のオミクロン株もよく分からないようです。寒い冬、インフルエンザの方にも気をつけてお暮らしください。（T）